



「未完の挑戦」

～自分の中にある力を信じて～

校 長 森角 由希子

今年の夏休みは、「これまでに経験したことのない暑さ」と言われるほど、活動するには厳しい環境でした。課題が思うように進まず、少し気分が沈んだ日もあったかもしれませんが、それでも、生徒の皆さんが部活動の練習や大会、コンクール・発表会、展示会、スピーチコンテスト、地域行事など、さまざまな場面で意欲的に取り組む姿をたくさん見ることができました。皆さんの頑張りと成長が、これからの学校生活の中でさらに輝いていくことを願っています。

さて、いよいよ2学期が始まりました。夏休みを振り返ってみると、7月の頃には、「順調に進んでいる」と感じていた人も多かったのではないのでしょうか。しかし、予定通りに進めていたはずの課題も、スマホやゲームなどの誘惑につい手が伸びてしまい、気付けばペースが乱れてしまう。「まだ余裕がある」と思っていたのに、お盆を過ぎた頃には「もうすぐ終わってしまう」と焦り始める……そのような経験、心当たりはありませんか？

実は私自身も、思い通りに過ごせた夏休みはほとんどありません。特に中学生の頃は、課される内容も多く、苦い思い出がたくさんあります。国語・社会・数学・理科・英語の問題集、作文や読書感想文、自由研究（社会と理科）、美術の風景画、家庭科の創意くふう展の作品（当時は技術・家庭科が男女別学でした）。音楽や保健体育の記憶は曖昧ですが、リコーダーや体力づくりの課題があったかもしれません。

そのような中でも、「早めに取り組んでいる」と思っていた私が、友人の「夏休みが終わる2週間前にはすべて課題を終えていた」という言葉に驚き、自分の“先延ばしの傾向”に気付かされました。「もっと有意義に過ごせたはず」と、悔しさを感じたことを今でも覚えています。

心理学者アドラーはこう語っています。

「困難を克服する力は、すべての人に備わっている。」

物事を後回しにしてしまう癖は、誰にでもあるものです。私も、大人になった今でも、誘惑に負けてしまうことがあります。そして「あの時間を取り戻したい」と思うことも、一度や二度ではありません。でも、大切なのは「気付いたら今から、どう動くか」。「やらなきゃ」ではなく、「やってみよう」と思えることが、自分の力になります。思うようにできなかったことがあるなら、それは「未完の挑戦」。2学期は、その続きを始める絶好の機会です。自分の中にある力を信じて、少しずつでも前に進んでみましょう。完璧な準備は必要ありません。うまくいかなかった経験は、“学びの種”として、きっと自分の中で芽を出そうとしています。

やり残したことがあるなら、それは“次の一步のきっかけ”になるかもしれません。

皆さんは、どんな一歩から始めますか？

そして、どんな自分になりたいですか？



奈良 東大寺にて